

# 伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業事業者の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

有限会社佐竹辰五郎商店

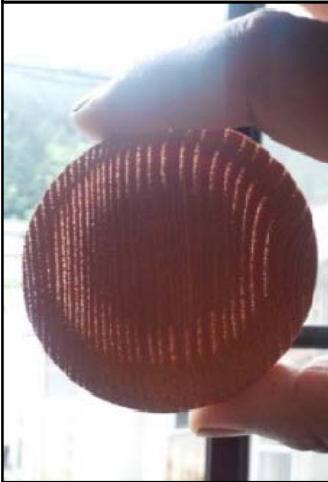
2011年9月発行

# INDEX

1.	当社の代表製品	.....	1
2.	当社の概要	.....	2
3.	伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	.....	3
4.	当社が提供する価値とそれを支える知的資産	.....	4
5.	これからの挑戦	.....	5
6.	代表者からのメッセージ	.....	5
7.	作成支援士業コメント	.....	6
8.	知的資産経営報告書とは	.....	7

## 1. 当社の代表製品

**【超極薄挽き 櫛ぐいのみ】**



「超極薄挽き 櫛ぐいのみ」は、太陽にかざして見ると、漆器の隙間から白い光が差し込み、軽く握ると歪むほどの薄さで、とても軽量の漆器になります。薄く挽くことに木地師の技が光ります。

**【靱殻製漆器】**



靱殻製漆器の表面は、靱殻船が模様となって浮き出すため、一品一品違う素朴な味わいのデザインを楽しめます。天然素材の靱殻は環境に優しく、自然に還ることができる漆器です。磁器よりも軽やかで、陶器より温かみがあります。



**エコ椀**

漆は、月日がたつと、櫛の美しい木目を見せます。エコ椀は、使い古しても、漆を塗り直すことで、何度も再生して、生き続けることができます。親から子に子から孫に、代々受け継いで使われることを願って、製作いたしました。

**漆の器(フードボール)**



ボールの中は、ペットが食べやすい深さと傾斜になっております。漆は菌の抑制作用があります。そのため衛生面において、安心できます。ボールを噛んでも、木製のため、歯へのダメージが少なく、へこみ具合が模様となり、愛するペットとの思い出の品となることでしょう。

## 2. 当社の概要

### ■ 経営理念

～袖振り合うも他生の縁～  
「娘を嫁がせる親心」でものづくりをする。

### ■ 当社の特長

#### ●漆にこだわる

漆にこだわることは、「命」にこだわることです。当社では、漆を継ぎ足して、粘性が高く力強い漆を使い続けています。

漆は、木地の水分を調整し、木地に酸素を与えて呼吸させています。また、耐熱性に優れ、耐久性がとて良い塗料です。当社は、力強い漆を使うことによって、少しでも長生きできるものづくりを目指しています。

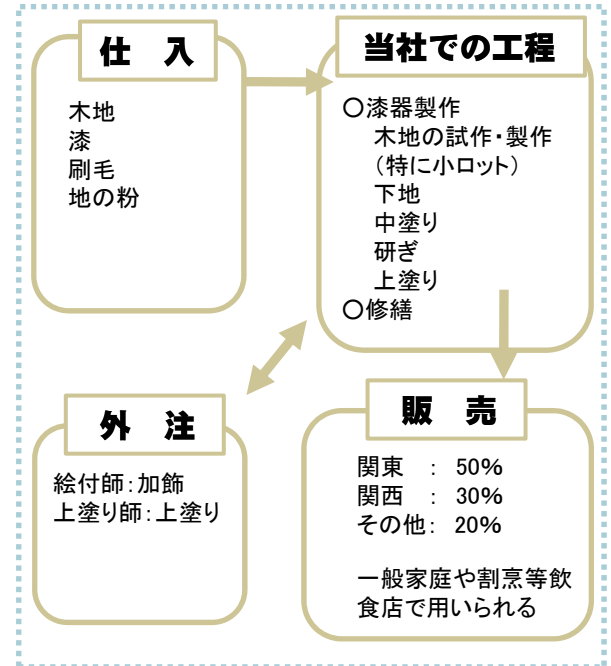
#### ●自分に合った道具作り

お客様のご要望に応えられるよう、当社は、道具作りから徹底して、こだわっています。へらの素材は檜・あての木を、刷毛の素材は若い女性の天然の黒髪を、筆の素材は木造の船に住んで潮風にあたっているネズミの毛を使用しております。3代目辰五郎は小刀を用いてへらを自作しております。研ぎ物は、天然砥石と油桐炭を使用しております。

#### ●木地の試作

他の木地師は採算性等の理由により、木地の試作に消極的です。当社は、石川県挽物轆轤技術研究所で轆轤挽きを学び、4名の木地で有名な作家の下で修行した3代目辰五郎の娘で4代目となる予定のめぐみが迅速に小ロット商品や木地の試作に対応します。なお、4代目も3代目と同様に、自らの道具である鉋を研いで手入れをしております。

### ■ 当社のビジネスモデル



### ■ 企業概要

【代表者】 佐竹 祐一  
【住所】 加賀市山中温泉菅谷町への234  
【業種】 漆器製造業  
【資本金】 3,000千円  
【従業員数】 3名  
【URL】 <http://www.tatugoro.jp/>

### ■ 沿革

大正10年 現社長の祖父である初代辰五郎が創業。  
平成 2年 法人成り。2代目辰五郎が代表取締役就任。  
平成14年 ホームページ開設。  
平成15年 靱殻製漆器開発。  
平成17年 現社長(3代目辰五郎)が代表取締役就任。  
平成18年 超極薄挽き 櫛ぐいのみ開発。  
平成22年 カードケースオブジャパン、平成22年度石川ブランド製品認定。

### ■ 連絡先

TEL : 0761-78-1428  
FAX : 0761-78-2948  
E-Mail : [info@tatugoro.jp](mailto:info@tatugoro.jp)  
担当者: 佐竹 祐一

### ■ アクセス



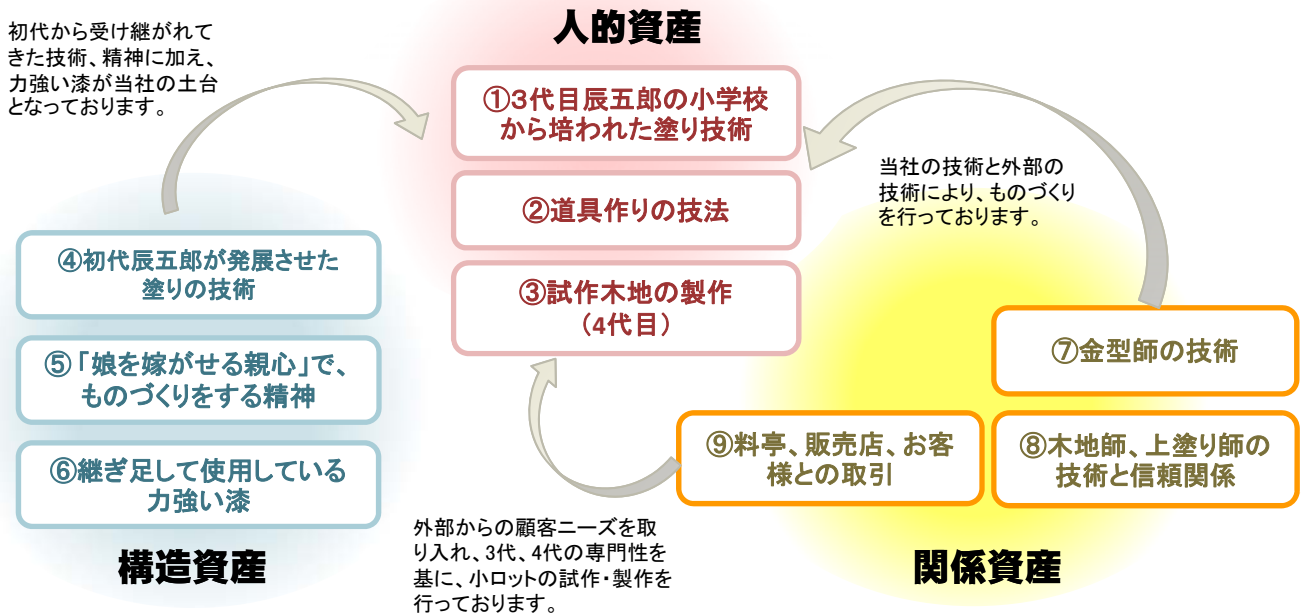


## 4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産

### ■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（過去から現在の価値創造のストーリー）

初代辰五郎から受け継がれる技法と熱意	3代目辰五郎の技とこだわり	新たな素材に挑戦
<p>初代辰五郎は、漆にこだわり、山中漆器の塗りの工程を増やした技法を発展、普及させました。この技法は、何度も塗り重ねて磨くことです。それにより、木目が見え、黒く鮮やかになり、風合いがよくなります。そのこだわりの漆は、継ぎ足して使い続け、現在も受け継がれています。初代辰五郎は、ものづくりの心を「娘を嫁がせる親心であり、育てて、嫁がせる。」と考えていました。また、漆器が傷んだ際は、「里帰り」をして、ふっくら太らせ丈夫にして家に帰り、その家にしかないものを親から子へ受け継いで欲しいと考えていました。</p>	<p>3代目辰五郎は、小学校の時から2代目辰五郎の塗り作業を手伝い、塗りの技術を6名の塗師から教わりました。職人は、自分で模索し、それぞれ自分に合った手法や工程を熟成させていきます。そのため、見て覚えるといった伝承方法ではありませんが、「人が喜ぶものづくりをすること」「丈夫さだけは負けないものづくりをすること」という精神を、徹底して叩き込まれました。また初代辰五郎からのものづくりの心は現在も受け継がれ、3代目辰五郎は、営利に関係なく修繕を行い、少しでも長生きできるものづくりを目指しています。3代目辰五郎は伝統的な手法を重視して、見えない部分にこだわっております。</p>	<p>伝統的な山中漆器は、材料となるケヤキやトチの木が年々減り、木の乾燥に年月を費やすため、中国などから輸入される安い製品に押されています。3代目辰五郎は、自然に還ることができ漆器を製作したいと考え、金型師と協力し、地元の様々な素材で漆器を試作しました。一番苦労したのは、接着剤の材料でした。化学物質を多く使えば簡単ですが、それでは自然に還る漆器ではなくなります。そして5年間の試行錯誤の末、稲の籾殻を熱と圧で固めた食器類を開発しました。</p>

### ■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？



#### 【提供する顧客価値】

当社は、顧客のニーズに対応して、代々受け継がれてきた伝統に重きを置き、昔ながらの见えない部分にこだわる漆器や環境を考慮した新たな漆器を提供します。

当社が提供する顧客価値は、初代辰五郎から塗りの技術、精神、漆(④~⑥)を3代目辰五郎が継承し、さらに磨き(①)をかけたものを基に形成されております。当社は、これまでの伝統工芸品はもちろんのこと、3代目辰五郎の塗の技術(①)と金型師の技術(⑦)との連携によりエコの時代にマッチした新たな素材の商品を提供いたします(例えば、籾殻製漆器)。また、木地師、上塗り師と連携して(⑧)技術の限界に挑戦した商品も提供いたします(例えば、超極薄挽き 櫛ぐいのみ)。

3代目辰五郎の精神は、木地師である娘のめぐみ(4代目の予定)に継承しています。他の木地師は、なかなか取り組まない試作木地の製作を、4代目が担っております。お客様(⑨)から要望があった木地を試作すること(③)により、お客様(⑨)の満足度をさらに高めております。3代目と4代目が自分に合った道具作りをすること(②)によって、細部までこだわることができます。

※文章中の番号は、上図の知的資産を意味します。

## 5. これからの挑戦

### ■ 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

環境に優しく、人が喜ぶものづくり  
～時代に合わせて進化する～

当社は、自然の恩恵に応えられるよう、何百年間も生きてきた木に漆を塗り、さらに生かすのが漆器作りだと考えています。例えば、100年間生きていた木であれば、漆を塗ればその何倍も使用できます。3代目辰五郎は、後世に上等な木を1本でも多く残していきたいと考えております。そのような思いから、日本を代表する銘木樺の木でエコ椀を製作しました。エコ椀とは、使い古した漆器に漆を塗り直すことで命を吹き返し、親子代々使用することができる漆器です。当社は、エコ椀を人間国宝 松田権六先生が発展させた工程を採り入れて製作しております。特徴は、力のある漆を何回も塗ることであり、そのため工程数が増えます。

3代目辰五郎は、百貨店で好評の薄いワイングラスに感銘を受け、酒杯にも薄さを求めることを考えました。そこで試行錯誤の末に生まれた商品が「超極薄挽き 樺ぐいのみ」です。「超極薄挽き 樺ぐいのみ」は極薄のため、旋盤では加工できず、職人の手の微妙な力加減が必要です。そのため、手作業でのみ製作が可能です。また、「超極薄挽き 樺ぐいのみ」は、極薄のため、すぐに割れてしまいます。そこで、継ぎ足し用いている力のある漆(粘性が高い漆)を木目の中に塗ることによって、強度が増し、割れにくくなりました。

現在は、菓子皿、鉢、杯、銘々皿など6種類の靱殻製漆器製作が可能となりました。しかし、3代目辰五郎の、最終的な夢は靱殻製漆器のご飯茶碗を製作することです。そのためには、さらに強く、硬い器にする必要があります。

当社は、これからも初心の気持ちが大変だと考え、常にチャレンジし続けます。そして、これからも伝統を守り、エコの時代にマッチしたものづくりを目指して参ります。

小ロットの市場に対応

昨今、割高ではありますが個性的な商品を求めているお客様を、多く見受けます。そのため漆器の市場は、徐々に小ロットになっています。しかし木地師は、小ロットの試作・製作に消極的です。当社では、3代目の娘が対応し、お客様からの要望に答えております。今後、さらに小ロットの需要が増加すると考えられます。

当社は、親子で製作したこだわりの漆器を親から子に子から孫に、代々受け継いで使われることを願っております。その親のところが伝わる器作り、これが日本の文化そして日本のこころだと考えております。当社は、顧客のニーズ、時代の変化に柔軟に対応し、満足していただけるものづくりを継承します。

## 6. ～代表者からのメッセージ～



小学校の時から2代目辰五郎の塗り作業を手伝い、2代目辰五郎の弟子6名から基本を学びました。

学校卒業後、当社に入社し、本格的に修行を開始しました。

昔からの習わしで、1日に100個の塗り作業ができないと一人前でないとと言われていました。しかし通常はできません。そのため毎日夜遅くまで作業し、近づけるように努力しました。

その修業が、現在の技術の礎となっています。

木や漆は生きものです。

生きたものは、大事にしなければいけません。ですから気配りをして、愛される品にしなければなりません。

先代から「よい子供に育て、そして嫁として嫁がして、良い嫁が来てくれたと言われるような品物を作れ。」と言われてきました。

漆の器は何十年、若しくは何百年生きてきた木を使って良質の漆を何回も塗り、作られています。

私達は木が生きてきた以上に生きられるような仕事をしています。

## 7. 作成支援士業コメント

中小企業診断士 佐々木 経司

当社三代目は、ものづくりの心と塗の技術、力強い漆を頑なに守り続けてきた職人です。商品こそが営業マンとの考えのもと、ひたすらに良い漆器を造り続けてきました。その甲斐あって、当社の取引先は、良い漆器を求める方がほとんどであり、手間暇かけた漆器を好む方々です。

三代目は、常に環境のことを考え、自らの技術を集結させて親子代々の長きに渡って使用できる漆器を造っております。修繕事業においても、三代目の下に来る前の製造方法の如何にかかわらず、長持ちする修繕を行っております。

当社には最近三代目の令嬢が木地師として入社しました。自社に木地師がいることにより、柔軟な試作、小ロット生産が可能となりました。

当社がこれまで形成してきた知的資産は今後の事業展開にも大いに活用することができます。これまで良好な関係を築いてきた取引先に対して、近年増加傾向にある環境を大事にした商品を、小ロットで提供する。今後も知的資産を十二分に活用した経営に期待いたします。

行政書士 勝尾 太一

佐竹辰五郎商店は、この木地の一大産地にあつて、“強い漆”にこだわりを持つ漆塗りの職人として、伝統の技を受け継いできた工房です。限界を超えて挽かれた木地を用いて創られる代表作、『超極薄挽き櫨(けやき)ぐい呑み』は、「受け継がれた技」と、「人が喜ぶものづくり、丈夫さではどこにも負けないものづくり」という精神が現れた一品です。

佐竹辰五郎商店には、優れた塗の技と、ものづくりの精神を受け継ぐ三代目という人的資産に加え、長年に亘り三代目とともに互いの技術を信頼し高め合ってきた木地師、上塗師との強力な関係資産が在ります。それらの資産が高いレベルで結び付き、意欲的な品(極薄挽き櫨ぐい呑み、糊殻製漆器等)を生み出す力(ちから)となっていることが分かります。既存の商品に加え、これらこだわりの品を積極的にアピールすることにより、より多くの方に佐竹辰五郎商店を知っていただき、それを契機とした、新たな関係資産の構築・強化(独自の営業、販売先)することが求められます。近時、当工房では、小ロットの試作、製作を可能とする体制が構築することができました。いかに小さなニーズにも応えることにより、新たな関係資産を強化することに寄与するものと考えます。

弁理士 横井 敏弘

有限会社佐竹辰五郎商店(以下、当社)は、木地と漆にこだわり、本物の漆器をつくってまいりました。「本物」によって信頼を築いていくことが、当社の方針だからです。また、漆器の制作工程では、木地や生漆だけでなく、道具にもこだわっております。そして、作品の出荷時には、「わが子」を嫁がせるような思いになります。このような「愚直な」ものづくりを支えてきたのは、山中漆器の伝統です。この伝統とは、単なる技法の伝承にとどまらず、木や生漆に対する「思い」の伝承をも包含しております。「強い漆」や木地に対するこだわり、これらを最大限活かすための道具に対するこだわり、漆器を「自分の分身」とみだてて使ってもらいたいという作品に対する思い、漆器を修理して長く使ってもらいたいという漆器に対する思い、などです。

これらの思いは、山中漆器の技法と共に、当社で受け継がれてきた重要なノウハウです。これらのノウハウにしっかりと軸足を置いて、当社は積極的にチャレンジしております。

これからは、「本物」を理解してもらうための情報発信が重要になります。その際には、ブランドを重視して頂きたいと思えます。本物を広く理解してもらうためのツールがブランドなのです。また、「本物」というブランドイメージを支えていくのが、上記のノウハウです。ノウハウの承継にも力を注いで頂き、「本物」の提供を末永く継続されることを期待しております。

## 8. 知的資産経営報告書とは

### 【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしました。

### 知的資産のイメージ



### 【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営作成事業」により作成いたしました。